

1 経営の基本

本校は知的発達に遅れがある児童生徒が社会の中でいきいきと生活していく姿をめざし、保護者や地域とともに一人一人の発達の可能性を最大限に伸ばす教育を行う。また、静岡大学教育学部の附属学校として、教員養成にあたりとともに、大学及び関係機関と共同して教育研究に取り組み、静岡県の特別支援教育の発展と教員の専門性の向上（高度化）に資する。

2 学校教育目標

心身ともに健康で、積極的に社会参加する人の育成をめざす

3 めざす児童生徒の姿

『生活を切り開く人』

- 【具体目標】
- 心身ともに健康な人
 - 身の回りのことは自分でする人
 - 集団生活に積極的に参加する人
 - 意欲的に学習や作業に取り組む人

4 中長期的目標

<安心・安全な学校>

- (1) 命を守る教育を推進し、健康な体づくりや防災、防犯意識を高め、対応できる力を育む。
- (2) 人権教育を推進し、明るい挨拶や正しい言葉遣い、いじめ防止等の意識を高める。
- (3) 教職員の心身の健康につながる業務改善を進める。

<一人一人が伸びる学校>

- (1) 児童生徒が主体的に学び、一人一人の可能性を十分引き出す教育実践を進める。
- (2) たくましさと学ぶ意欲を高め、生活に生きる確かな力を育む。
- (3) 地域で生きる（活きる）姿を目指した教育実践を進める。

<大学と連携し、保護者や地域から信頼される学校>

- (1) 大学や県総合教育センターと連携した教育実践、教育研究、教育実習を進める。
- (2) 特別支援教育のセンター的機能を果たし、地域や附属学校園との繋がりを図る。
- (3) 地域で信頼される学校運営を進める。

5 令和2年度の重点

		取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	主な担当
安心・安全な学校	(1)	運動の習慣化と生活習慣の定着	朝のトレーニングや日常生活指導の場面を通して、健康や体力づくりを意識した指導内容の充実。 (指導内容の改善 年6回)	運動への取り組みや生活の見直しが育っている。	保健体育部 各学部
		安全教育の推進と生活意識の充実	日常生活の指導や学習会を通して、自分の体を守る体験的な教育活動の充実。 (体験的学習の実施 年12回)	怪我や事故を未然に防ぐ子供が育っている。	生徒指導部 養教 各学部
	(2)	人権を尊重する教育活動の実践	人権教育年間計画に基づく「人を大切にする」授業実践と研修の実施及びコミュニケーション手段の獲得の推進。 (特別活動を含む授業実践 年6回) (研修等実施 年3回)	互いを認め合う子供同士の関わりが育っている。	生徒指導部 特別支援部 各学部
	(3)	「チーム附属」を活かした体制改善	業務の見える化を図り、精選と効率化の工夫。 (実践やアイデアの発信 年24回)	教育の質の向上に業務改善が繋がった。	各学部 各分掌 事務室
			学校経営の充実を図るための会議の効率化、短縮化の実践。 (運営委と職会の改善 年3回) (進め方の改善 年6回)	経営の充実に会議の改善が繋がった。	各学部 各分掌 教務部
	一人一人が伸びる学校	(1)	子供の学びの繋がりを意識した授業実践	校内研修を軸に子供のニーズに応じた授業実践と評価による授業改善。 (一人一改善 年3回)	授業改善により、子供の力が向上した。
キャリア教育(CM含む)の視点を取り入れた指導の推進と研修会の実施。 (研修等実施 年3回)				子供のはたらく力が育っている。	進路指導部 教務部
(2)		豊かな表現力と挑戦する心を育む指導の充実	図書コーナーの充実や地域資源を活用し、豊かな心を育む読書活動の推進。 (環境設定や活動の推進 年6回)	本に親しむ習慣が育っている子供。	生徒指導部 各学部
			音楽活動や文化芸術活動等、外部での自己表現場面を設定。 (外部での活動や発信 年6回)	自信を持って表現する子供が育っている	各学部
(3)		社会に開かれた教育課程の推進	販売活動や体験活動等、地域を舞台にした学習の拡大。 (外部の人や場所を活用した授業 年9回)	生活に結びつく子供の力が高まった。	各学部

			学校間交流や居住地校交流など連携を図り、相互に有効な交流活動の推進 (交流活動 年10回)	「有効であった」と答える本校と相手校。	各学部 特別支援部
大学・地域と連携した信頼される学校	(1)	附属学校ならではの教育活動の充実と魅力発信	大学等と連携し、学びを育むための教育研究の推進と研究協議会及び研究フォーラムの実施と戦略的な発信。 (連携した授業 年6回) (ターゲットを定めた発信 年6回)	附属校ならではの授業実践と研究の発信が図られた。	各学部 研究部
			子供と学生との関わりを大切にした教育実習や介護等体験の支援と指導。 (学生の実態を考慮した支援・指導 100%)	教職への想いを更に深くした大学生。	実習担当 各学部
	(2)	地域の力を高めるセンター的機能の充実	関係職員の専門性を向上させるため、特化した専門性のある教員や外部講師による学習会や研修会の実施。 (夏季研修会等 年3回)	特別支援教育の理解が深まったとする参加者。	特別支援部、進路指導部、研究部
			静岡地区コーディネーターや関係機関との連携や推進を図り、要請に対応。	相談依頼者の満足100%。	コーディネーター
	(3)	学校の魅力発信を行い、本校の理解深める。	授業実践や教育活動の様子を公立学校や地域に積極的に発信。 (HP、新聞、学校公開等 年24回)	公立学校や地域で本校の理解が深まった。	各学部 全職員
			保護者や地域の方、ボランティア等が参加しやすくなる学校行事・学部行事の工夫。 (参加者の笑顔や感動の工夫 100%)	「参加して楽しかった」と答える校内外の参加者	各学部 全職員